



*Better Health, Brighter Future*

会社名 武田薬品工業株式会社  
代表者 代表取締役社長 CEO クリストフ・ウェバー  
(コード番号 4502 東証第1部)  
問合せ先 グローバルファイナンスIR  
Tel 03-3278-2039

# Takeda Information

2015年5月15日

## 平成27年3月期と前期の連結業績の差異に関するお知らせ

当社は、平成27年3月期(平成26年4月1日～平成27年3月31日、以下「当期」と)、平成26年3月期(平成25年4月1日～平成26年3月31日、以下「前期」)の連結業績の差異について、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 当期と前期の連結業績の差異

(単位:百万円)

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益
前期業績(A)	1,691,685	139,274	158,851	109,558	106,658
当期業績(B)	1,777,824	△129,254	△145,437	△143,034	△145,775
増減額(B-A)	86,139	△268,527	△304,288	△252,593	△252,433
増減率(%)	+5.1%	—	—	—	—

#### 2. 差異の理由

売上収益については、為替の円安による増収影響に加え、国内では高血圧症治療剤「アジルバ」や高脂血症治療剤「ロトリガ」、米国では潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「エンティビオ」や多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」などが伸長しました。また、欧州では悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が引き続き伸長しました。一方、高血圧症治療剤カンデサルタン(国内製品名:「プロプレス」)、消化性潰瘍治療剤ランソプラゾール(国内製品名:「タケプロン」)の後発品の浸透や、国内における薬価改定による減収影響もあり、全体では861億円の増収となりました。

営業利益以下の段階利益については、2型糖尿病治療剤「アクトス」について米国で提起された訴訟の和解金、本和解に参加しない原告による訴訟への対応費用などを引当計上したことに伴う影響がありました。当該費用について、27.0億ドル(3,241億円)を引当計上するとともに、製造物責任保険による支払いが概ね見込まれる保険金額(500億円)を金融資産として計上し、これらの純額をその他の営業費用と

して計上しました。

販売費及び一般管理費は、米国における新製品の上市に伴う経費の増加などにより 564 億円増加し、研究開発費は 405 億円増加しました。製品に係る無形資産償却費及び減損損失は 532 億円の減損損失を計上したことなどにより増加しました。一方、328 億円の固定資産売却益の発生などにより、その他の営業収益は大幅に増加しました。これらの結果、営業利益については、前期から 2,685 億円減益の 1,293 億円の営業損失となりました。

税引前利益、当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益が大幅に減益となったことに加え、前期より金融資産の売却益が減少するなど金融損益が悪化したこと、さらに、日本の平成 27 年度税制改正による法人税率変更に伴う影響により税金費用が増加したことなどにより、それぞれ、前期から大幅な減益となりました。

詳細については、本日公表の「平成 27 年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)」をご参照ください。

以上